

分野別
将来像

誰一人として決して取り残さない，みんなで共に生きるまち 調布

《将来像に込められたあるべきまちの姿》

- ・高齢者や障害者，難病を患った方や貧困・虐待に苦しむ方，様々な支援を必要とする方に対して，ありとあらゆる福祉施策を充実させ，それぞれが抱える課題の種類や性質の違い，悩みの大小にかかわらず，気軽に助けを求められることができる，「誰一人として，決して取り残さない」支援体制を構築します。
- ・オンラインによる相談受付やオープンチャット等，デジタル技術も活用し，相談や交流がしやすい居場所づくりを進めます。
- ・ヤングケアラーやダブルケアラーといった「『ケアラー（介護者）』に向けたケア」にも積極的に取り組みます。
- ・ニーズの異なる当事者の視点を踏まえ，多角的な考えからユニバーサルデザインを検討する等，ハード面においても「誰一人として，決して取り残さない」まちづくりを進めます。

《将来像につながるキーワード》

「多様性」「支え合い」「交流」「居場所」「寛容」「安心」「地域」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン誰も取り残されない，困っている人が生活しやすい，身近な，多様性，認め合い，支え合い，助け合い，活力や安らぎ，共生社会の実現，住民同士の交流や参加の場，「つながり」「共感」「多様性」「認め合い」「居場所」「交流」「共感」「寛容」「多様性」「支え合い」「安心」交流したくなる居場所」「多様なニーズに合わせた支援の仕組みづくり（ヤングケアラー，ダブルケアラー）」「当事者同士がつながる仕組みづくり（リアルとデジタル両方）」「難病者への配慮（就労支援）」「目に見えない障害への理解」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

① 気軽に地域での関わりを深められ，助け合えるまちづくり

- ◆子育てをはじめ，地域社会の多様なニーズの解決に向けて対応する様々なコーディネーターを身近な場所に配置します。
- ◆だれもが自由に交流できる，大きく広い「間口」を持った居場所づくりを推進します。
- ◆活力や安らぎを得ることができ，活力や安らぎが連鎖する居場所づくりを推進します。
- ◆災害時の避難場所において，バリアフリーに配慮するほか，集団生活に困難を抱える人であっても，落ち着いて過ごすことのできる場所を確保するとともに，周囲の理解を得られるような取組を推進します。

② 多様なニーズに応じたきめ細かな支援体制の充実

- ◆ヤングケアラー，ダブルケアラー，老々介護など，ケアラー（介護者）の身体的・精神的負担を緩和するための支援の充実を図ります。
- ◆デジタルデバインド解消のための支援体制を構築とあわせて，地域で情報格差を解消できる取組も推進していきます。

③ 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための支援の推進

- ◆高齢者が要介護状態になっても，望む場所で安心して生活できるよう，状態の変化に応じて，切れ目なく必要なサービスを提供する地域包括ケアシステムの充実を図ります。
- ◆虐待防止や早期発見にも結びつくよう，地域との連携・協力のもと，高齢者が地域の中で安心して暮らし続けられる見守り体制の充実を図ります。
- ◆引き続き，これまでの介護予防事業を継続的に実施するとともに，より多くの高齢者に介護予防や健康づくりに取り組んでもらえるよう，さらに新しい介護予防事業の強化を図ります。
- ◆高齢者や障害者を含め，だれもが安心して外出し，行きたい場所まで移動できるよう，歩道や道路の整備を推進します。

④ 自分らしく暮らしていけるような当事者の視点を重視した調布のまちづくり

- ◆障害を抱える方だけではなく，難病の方にも配慮した共生社会の実現に向け，「困っている人が生活しやすいまちづくり」が住民の共通の課題認識となるよう，意識の醸成を図ります。
- ◆歩行困難者やベビーカーの利用者，視覚障害者等の多様なニーズを考慮し，ユニバーサルデザインを踏まえた視点から，だれもが安心して移動できるよう，歩道や道路の整備を促進します。

現状と
課題

強み（良いところ，伸ばしたいところ）

- 他自治体に比べて，地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員など，地域福祉に関わる専門職が多い
- 地域社会や公的サービスによる，支援が必要な方への見守り体制が充実している
- 行政が対応しきれない部分を，社協などの関係機関がカバーしている，他

弱み（悪いところ，改善したいところ）

- △高齢者への生活支援サービスが他の自治体に比べて不十分
- △ヤングケアラーへの支援（特に精神面）がない
- △障害者への理解を醸成するための取組は不足している
- △地域住民同士がつながりを得られる機会が少ない，他

分野別
将来像

次代を担う子どもたちや若い世代の個性を理解し, その一人一人が安心して自分らしく過ごせるまち 調布

《将来像に込められたあるべきまちの姿》

- ・子どもたちが、自然に多様性に触れられる環境をつくり、日常の中で様々な個性を理解することができる環境を整え、特別支援教育の更なる充実を図る等、より一層、一人一人の個性に合わせた教育環境を整えます。
- ・アレルギー対策については、過去の死亡事故の教訓を生かし、アレルギーを持つ子どもたちに配慮した給食の提供や対策マニュアルの見直し、理解を深めるための研修プログラムの充実を図る等、盤石な体制を築きます。
- ・地域に開かれた学校づくりによって、地域と学校との関係性をより密接で強固なものとする事で、「地域に見守られた安全な学校」を目指します。
- ・小学生や中学生はもちろんのこと、18歳以上の年代も含めた若い世代が、声や想いを自由に発信し、一人一人がまちの一員であることを実感することができる、居心地の良いまちをつくります。

《将来像につながるキーワード》

子どもの意見や人権を尊重、意見を言える場、子どもの頃から行政参加、次世代の担い手づくり、互いのよさや違いを認め合う、安全・安心な学校環境づくり、子どもが活躍できる場づくり、心の壁のない教育、「気づき」を得られる交流、特別支援教育の更なる充実、事故を契機とした食物アレルギーに対する盤石な「調布モデル」の充実、セキュリティバランスに考慮した学校づくり、一人でもいられる場所、「心」の安心・安全、一人一人に合った教育を提供できる体制「多様性」「安心安全」「地域」「バリアフリー」「若い世代がより主体的に地域で活動できる環境整備」「心の壁のない」「地域に開かれた学校」「地域と協働」「違いは豊かさと感じられる学校」「特別支援教育の質の担保・向上」「アレルギーに配慮した盤石な「調布モデル」」「多様性を学ぶ機会を保障」「ユニバーサルな施設・設備を整備」「若い世代の居場所づくり(交流の場づくり)」「若い世代の主体的な地域参加をうながす(取り組み・環境・場)」「困難を抱えた若者を取りこぼさず支援」【若い世代】「交流」「居場所」「相談」「幅広い若い世代」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①子どもたちが互いに尊重し、認め合い、支え合うことができる心の壁のない環境づくり

- ◆児童・生徒が自分と他者の違いを自然に受け入れ、多様性について「気づき」を得られる交流機会や教育体制の充実を図ります。
- ◆年齢差、能力差、障害等に対する心理的な壁を感じることがない個に応じた教育、特別支援教育の更なる充実を図ります。

②学び・食・遊び等を通じて、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境づくり

- ◆食物アレルギーをもつ児童・生徒が多くいることを前提とした給食の提供や、アレルギーに関する教育・研修プログラムの充実を図ります。
- ◆当事者の経験を教育現場等で子どもたちに伝えられるように、当事者に向けた研修を実施する等、子どもたちに多様性を伝える人財(当事者)を増やすための取組を促進する。

③子どもたちが安全に過ごすことができる、地域に開かれた学校づくり

- ◆学校のセキュリティを保ちつつ、地域に開かれ、地域との協働による学校づくりを推進することで、地域コミュニティの重要性和学校のセキュリティをバランスよく両立させます。
- ◆学校に限らず、児童・生徒が過ごす場所におけるバリアフリーの徹底を図ります。
- ◆防犯・防災の観点からの「安全・安心」だけでなく、子どもたち一人一人の心の安心感を充足させられる学校づくりを目指します。

④若い世代が、いきいきと交流し、活躍できる場づくり

- ◆若い世代が互いに共感を得ることができるよう、相談し合える仕組みづくり、困難を抱える青少年がいつでも相談できる場の拡充を図ります。
- ◆若い世代が行政計画や地域の取組に参加しやすい環境を整えます。
- ◆若い世代が地域に誇りを感じられるような大規模イベントを促進します。
- ◆多分野で活躍できる「人財」を生み出すため、若い世代の人財育成を推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 中学生・高校生向けの児童館として青少年ステーション CAPS がある
- 全ての学校及びその付近において、放課後子供教室事業(ユーフォー)を実施している
- 児童・生徒の安全・安心を確保するための取組, 他など

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △児童・生徒が多様性を認め合える教育が十分にできていない
- △児童・生徒数の増加に伴う教室の整備, 一人ひとりと向き合う時間の確保
- △学校施設の老朽化が進んでいる
- △18歳以上の若者に対する支援が弱い, 他

※斜体は、関連する個別計画等を踏まえ、追記した内容です。

分野別
将来像

子どもや子育てに対する寛容さに溢れ、 安心して子どもを産み、育てることができるまち 調布

《将来像に込められたあるべきまちの姿》

- ・市民にとって身近な場所で、子育てに関する包括的な支援体制を整備することで、切れ目ない支援の更なる充実を図ります。
- ・地域住民や行政、民間企業、NPO 法人、医療機関等の様々な主体が連携した、子育て支援を実施することで、調布市で子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりを推進します。
- ・子どもや子育てに対する市民の寛容さの醸成を目的として、広報や啓発的な取組を実施し、地域全体で子育てを行う風土をつくります。

《将来像につながるキーワード》

困ったとき、誰もが、いつでも(デジタル関連)、身近に(福祉圏域(8圏域))、迷わず、相談できる機能、子育て包括支援、取り残されない、調布で子どもを産み・育てたい、子どもを産み・育てやすい、切れ目のない支援、様々な主体との連携・協力、「寛容」「相談できる」「産み・育てやすい」「子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」「いつでも相談できる支援環境の充実」「子ども・子育てに寛容な地域」「官民連携によるサービス創出」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①様々な主体が連携した「調布で子どもを産みたい・育てたい」と思えるまちづくり

- ◆市民にとって身近な場所で、子育てに関する包括的な支援サービスの充実を図ります。
- ◆「子どもを産み、育てやすいまちづくり」を推進することで、調布の子育て環境の良さを市内外に効果的にPRします。

②だれもが安心して子どもを産み、育てることができる切れ目のない支援環境の充実

- ◆行政と民間が密に協力・連携しながら、子ども・子育て施設の整備充実や多様なサービスの提供を推進します。
- ◆子育てに対する市民の寛容さの醸成を目的とした広報・啓発活動を推進します。
- ◆妊娠期からの早期支援、子どもの発達段階に応じた各種健診や予防接種事業の円滑な実施、出産前後の家庭への訪問及び相談等の取組をきめ細かに実施します。

③特別な支援を必要とする子どもや家庭への支援の充実

- ◆ひとり親家庭が必要な支援に確実につながるよう、関係機関との連携・協力体制を強化しながら、相談支援の充実を図るとともに、経済的な支援を実施します。
- ◆児童虐待防止センターや子育て世代包括支援センターの機能を活かし、虐待の予防や早期発見・早期対応に努めます。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)	弱み(悪いところ, 改善したいところ)
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭支援センター「すこやか」など、子育てに関して相談ができる場所・団体が多く充実している ○子育てに関する情報の提供源が増えてきた ○ひとり親家庭への支援が充実している, 他 	<ul style="list-style-type: none"> △出産前からの切れ目のない支援が不足している △0~2歳児の保育園への入園が難しい △子育てに関して相談できる場所・団体が多く充実しているが、広報が十分のために知らない人が多い, 他

※斜体は、関連する個別計画等を踏まえ、追記した内容です。